

奈良言友会会報

まほろば



春を呼ぶ お水取り

第5号

平成25年2月3日発行

カン・サンジュンさんからのメッセージ

堀 茂

「凍える唇/悩む力」と題してお話をされたカンさんは初めに、自分のこれまでの経緯を一つの事例として、まな板の鯉のつもりでお話したいと言われ、自身の体験から話を進め、自らの考えも示されました。カンさんのお話から私の心に強く残ったことを、できるだけカンさんの言葉で「カンさんからのメッセージ」としてここに記したいと思います。

○ 人間は不安を抱えて生きている

独断と偏見で申し上げると、吃音が治るとか、治らないということは、問題の立て方としては、あまり良いことではないんじゃないか。それよりも、私の一つのこだわりなのですが、人間は最後まで不安を抱えて生きているということです。・・・

passionは「情熱」ですが、the Passionと大文字にするとキリストの「受難」になりますね。最大の受難が人間の根源的な情熱と不可分に結びついている・・・

ある人は吃音ということ、他の人と違う病を背負ってしまったと考える人がいるかも知れない。そうではなくて、われわれは最後まで不安を抱きしめて生きる、それは必ず悩むということと不可分であるし、悩むからこそ、生きる力、つまり情熱というものが湧いてくる、私自身、ある時から、そういう風に考えるようになりました。・・・

何か体内に蓄積されて、自分でも知らないエネルギーとなって20才前後、それが堰を切ったように出てくる、そんな時代がございました。・・・

考えて見ると、私は「自分」を忘れたときに、ほとんど吃音が現象としてはなくなっていました。韓国の民主化のために学生運動をやりながら、毎日毎日朝から晩まで、忙しく動いていた時期にいつの間にか私の自意識というものがどこかに置き去りにされていました。・・・

現象として今私は言い淀んでいない、じゃあそれは吃音が治ったのか、そうではない。私は一人の人間として、間違いなく不安を抱えている・・・

○ 吃音は人間存在そのものに根本的にかかわっている。

10才ころ吃音を自覚するようになりました。国語の時間、朗読がうまくできず、針のムシロに座ったような、宇宙の中にひとり取り残されたような孤独感を味わった。17才を境にし、マイナスのスパイラルの中に入って、コミュニケーションがとりづらくなる、「在日」という出自の影響もあって、内向し、自分が社会から疎外されているという意識が強まった。その頃の私の心を、深い谷に渡した丸太の上を、渡れないで逡巡している状態と著名な心理学者から言われました。不安と恐怖に駆られて逡巡している状態、これは吃音者にも言えることではないでしょうか。

○ 自意識と不安

自分が周りの人間と違うという過剰な意識、それが吃音体験の中になんらかの影響を与えたと思います。自分を意識するということは、不安というものと切っても切り離せない、その不安が吃音という形でなくて、他の現象として現れる場合もある。そのひとつがやはり神経症であったり、あるいはそれ以外の現象であったりします。その表われ方はその人に備わっている様々な素因によって違ってきます。

○ 原因(犯人)探しは意味がない

神経症をもたらす不安というものについて、アメリカの著名な臨床医が本の中で、原因探しをするよりは、人間がこの環境の中に生きるということ自体が、不安というものを背負わざるをえない、そういう存在として人間というものを見ていけば、原因が何であるかということを考えることはあまり意味がない、と言っているのを読んで、得心がきました・・・

○ 同じ時代の中で不安を共有して生きている

戦前の国語教育で内地語が標準語で、沖縄語は異端の言葉として治さねばならなかった。そのように正常が異常を作り出していたのです。また例えば性同一性障害として、異常、倒錯と考えられていたことが、それは異常でも何でもないと考えられるようになってきています。

弱い、不安を抱えた存在を、異常、逸脱と見なす、そういう正常と異常の境界自体が崩れつつある社会、時代に今われわれは生きている・・・そう考えると我々は吃音であることを何か特別に異常な状態、あるいは病気と考える必要は一切ないのです・・・

皆さん方は吃音をどうやって治すかということに、非常に苦慮されているかも知れません。その中には、自分、自我ということを常に意識しながら、いつも張りつめた気持ちで人との交流を営まれている方もいらっしゃると思います。しかし、同じ時代の中で不安を共有して生きている限り、われわれには正常-異常の境界は意味がないと思います。

○ 「今とここ」を一生懸命に生きる

人間が一番不安に思ったり、心を苛まれるのは、記憶があって、未来を予測したがるということなのです。吃音で悩んだ時期、私が一番不安に思ったことは、過去の失敗をまた繰り返すということ、過去の記憶が自分を苛むのです。できる限りそれを省いて、「今とここを一生懸命生きよう」と思うと、以前よりストレスや不安が少なくなってきたように思います。

○ 人との出会いの大切さ

学生時代の出会いで非常にラッキーだったのは、私がどんなに言い淀んでも、エキセントリックになっても、聞いてくれる友人を得たことです。結局、自分のすべてを投げ出すことができたのですね。主人に完全に慣れた猫が仰向けになりますね。これは全て飼い主に任せるという意思表示だと思うのですが、われわれはプライドや意地があるから、なかなかそれができない。でも私は自分の親にも伴侶にも話せないようなことでも全部彼に話した。彼は聞く耳を持っていた人でしたから・・・。

○ もう生きていたくないと思ったときに

あの時代やっぱり、もう自分はこれで終わりなのではないか思えるくらいに、切羽詰まったところがありました。ただ、特に若い人に言いたいことは、「未完」である、終わっていないということですね。今どんなに辛くても、何かが人生に現われてくるかもしれない。亡くなったキャスターの筑紫哲也さんが、多くの人に出会った喜びみたいなものが自分の人生を形づくったと述べています。私もそうだった、多くの人と出会わなかったら今の自分はなかったと思います。若い人に、未完であるが故に、これから多くの出会いがある、そのことを強く言いたいですね。

○ おわりに

あたたかい、そして力強いカンさんの言葉はご自身の深い悩みの中から生まれたものだと思います。ここでお話の全部をお伝えできないのは残念ですが、その一端を書かせていただきました。カンさんがわれわれに伝えたいことを汲み取っていただければ幸いです。

例会報告

12月2日 吃音改善プログラム 担当 後藤文造

報告 堀

参加10名

京都での吃音ワークショップの分科会で行われた東京言友会の吃音改善研究会のセッションに参加した後藤さんが担当して、その研究会の考え方、プログラム内容を説明しました。考え方としては、相手に伝える内容よりも、話し方に重点をおいたスピーチ練習が中心という感じがしました。

その後、その考え方に従って、次のようなスピーチ練習やロールプレイを実際にやってみました。

- ① 1分間自己紹介：各自1分間を区切っての自己紹介、1分経過のブザーがなったら話の途中で次の人に移る。質問などは受け付けない。
- ② 二者択一課題：「AかBのどちらかを選べと言われたら、私はAを選ぶ。理由は〇〇であるから」をそれぞれ30秒で話して、次々に回す。
- ③ 朝礼ロールプレイング：会社での朝礼を、手順にしたがって、それぞれが役割を分担しておこなう。

感想

- 改善プログラムというのは興味をもちましたが、徹底的に改善というのは押しつけがましく、このままで良いんじゃないかと思いました。S, K
- 仕事でもコミュニケーションの力量が問われているこのごろですが、自分の課題もそれだと思えます。どもる、どもらないにかかわらず、思っていること、考えていることを、いかに相手に伝えていくことができるか、よい勉強になりました。M, K
- 改善研究会の取り組みを紹介していただき、今後の会のもち方についての考えもきけた。ありがとうございました。S
- 毎回出席させていただいて、皆様のご苦勞を聞き、振り返って私の苦勞を思い出し、この苦を聞いてもらえる場と私なりにうれしく思っております。今日の朝礼のロールプレイング大変勉強になりました。I, H
- 具体的な改善方法で、何か一つは自分に当てはまるのではないかと思いました。朝礼の模擬練習は面白かった。Y, T
- 東京の吃音改善研究会の活動をお聞きし、随分かっちりとやっておられると思いました。二者択一法「AとBの場合であれば、私はAを選びます。その理由は〇〇です」や朝礼のロールプレイングなど奈良でも使わせてもらえそうだと思います。H, S
- 改善プログラムはバランスが必要 G, B



1月13日前半 話し合い(ピア・カウンセリング) 担当 寺田純子

参加 13名

今回例会の司会を・・・と言われ何を話題に話せば良いのか考え、先ずはなぜ私が言友会に興味を持ち参加する事にしたのかという事を述べます。

私は仕事をする上で常に吃音との関わりに悩んできました。どの様な仕事にしる会話や電話はつき物で失敗もたくさんしてきました。しかし、こんな私でも社会とは繋がっていたい。仕事はしたい。新しい事に挑戦してみたいと思っていた時に「吃音ドクター」の著書に出会いました。読んでいくと菊池さんの気持ちが手に取る様に分かり感銘を受けました。それと、やはり医者という仕事をされているという事にある意味ショックを受けました。私自身、特定疾患を抱えており日頃から医者との関わりも深くあの様な仕事を吃音を抱えながらされている事が不思議で、ただ単純に「えっ！出来るんだ」と思いました。(その時仕事の事をうじうじ悩んでいた私が少しだけちっぽけに思いました。) その著書の中で言友会の事を知りとにかく自分と同じ障害を持っている人達と交流を持ちたい、色々な事が聞きたいと思い例会に参加する様になりました。さて菊池さんの著書の後押しもあり、今私は老人介護の分野でデイサービスの業務とケアマネジャーを兼務しています。この仕事は人との関わりや信頼関係を築く事が大切でありコミュニケーションの取り方や電話対応など吃音者が苦手とする行為が満載であり実際やってみるとかなり大変でへこむ事も多く悪戦苦闘しております。でもこの悪戦苦闘を少し楽しんでいる自分が居るのも確かで言葉が詰まりながらも伝えるべき事は伝えられているし仕事は成立させているので少しずつ自信に繋がっているのだと思います。今回例会の参加者の方々にも仕事の内容や吃音とどの様に向き合っておられるのか等意見を聞く事が出来ました。皆さん様々な職種で頑張っておられとても前向きに吃音を捉えておられた事に強さを感じました。それは同時に私に新鮮な驚きとパワーを頂いた様な気がします。皆さん有難うございました。これからも宜しくお願いいたします。

1月13日(後半)3分間スピーチ

担当:池嶋靖人

参加 13名

今回は3分間スピーチを行いました。

始めに私の持っている本の内容から3段階話法(主題+話題+主題)という一番簡単な話し方を紹介させて頂いて3分間という時間にとらわれず伝えたい事がわかるようにお願いしました。

事前に話を用意されていた方もいれば即席の方と状況は様々でした。話し慣れされている方は流石にきちんと3分間の時間通りにまとめられて感心しましたが、皆さんのほとんどが3分以内で話されましたし、お願いした伝えたい事をわかるようにと言った事を意識して下さったのでそれぞれの話しを楽しく聞かせていただきました。

終わってから考えてみますと、緊張してどもってしまう方はいなかったと思います。話す内容に集中していたからかもしれません。私としては少しでも自信につながればと思い3分間スピーチを

しました。特に吃音が出たりとか言いたい事がまとまらず話しが長引いてしまう人に対して、実をいえば私自身がそうなのですが（笑）、いかに相手に短くわかるように話せることはプライベートでも仕事に関しても大切な事だと感じています。

今回時間オーバーしてしまった方、今一つ言いたい事を伝えきれなかった方はこれを機会に自分なりに工夫していただければ幸いです。

私自身吃音を意識するあまり上手に話そうと考えがちなのですが、相手にきちんと内容が伝わればいいのだと考えが変わってきました。そして繰り返しになりますか時間を短くできればもっと良いと思います。共に励んでいきましょう！

感想

- 寺田さんの素朴な問いかけによって、皆さんが仕事を通しての悩みやその対応を話して下さってそれぞれの方の生き方、考え方に接することができました。私自身は吃音の悩みはありませんが、立場は違って、皆、悩みや心弱くなることもあり、それを仲間どうしの話によって、勇気づけられ、乗り越えていっていることが感じられ、私自身も年始に大きな力をいただきました。A、I
- 皆さんの仕事で困った話が聞けて、自分だけではないと思えてよかった。後半では、うまいスピーチの仕方について聞けてよかった。A、A
- 3分間スピーチで皆々様の声、話を聞き、自分の生活の中で色々考えられました。このようなスピーチ度々やってもらい気持ちを苦から逃れたい。I、H
- 3分間スピーチで緊張しました。M、G
- 仕事に対する問題点や解決案などいろいろ聞けてよかったと思います。T、J
- 大変内容の濃い良い話が聞けて参考になりました。Y、T
- 広く大きく活動の場を広げていくことも考えるべきじゃないかと思っています。様々な分野で交流し、話し合いを重ねていくこと、例えば障がい者の世界、難病者の世界は全く分からない。どのように生活されているのか、悩み、苦しみを聞いてみたい。社会に視野を広くして行動してみたらどうだろうか。夏休みを利用して若い人達を対象にコトノ教室を開いてはと思っている。M、Y
- 前半は、それぞれの職場での苦労や心がけていることなど、役立つ話をたくさん聞かせてもらいました。福祉職、松本さんの「へこんでいる暇はない」という言葉が気に入りました。後半の3分間スピーチは、興味ある話が多く楽しめました。みなさん余り緊張せずに話しておられたと思います。H、S



立会演説会の思い出

山崎真浩

小学校6年生の時に生徒会長に立候補した。というか立候補させられた。学級会の話し合いでは、ウチのクラスからは誰も立候補しないことに決まったのだが、これに担任の先生が横槍を入れてきた。「6年生で1番のウチのクラスから誰も立候補しないというのはおかしい！」確かにウチのクラスは6年1組だけど1組だから1番というのは屁理屈だとみんな思っていたはずだが、言えばやぶへびなので誰も何も言わなかった。この時の担任の必死な面持ちは思い出すと滑稽である。「まあ、選挙運動をみんなでやるのも勉強になるから、だれか立候補してみろよ」なんていう型どおりの理屈も言わず、「絶対だれか立候補しろ！しないと許さん！」という感じだった。同学年の他のクラスからは全部立候補したから、ウチの担任は自分の受け持っているクラスから立候補がないとなるとメンツが立たなかったのだろう。仕方なく学級会でもう一度話し合った結果、東京からの転校生で標準語を話すT君と私が立候補することになった。クラスの人気者だったO君が選ばれなかったところを見ると、これをみんなが貧乏くじだと思っていたことは間違いない。生徒会選挙のメインイベントは言わずと知れた全校生徒の前での立会演説である。これがあるがためにみんな立候補を嫌がるのだ。ここで注目すべきは、日頃、喧嘩なんかすると私のことを「どもり！」なんていじめるクラスメートが、平気で私を候補者にしたことである。これって例えると、足に障がいのある子に運動会のクラス対抗リレーに出場させるようなものではなかろうか。深い読みがあって本人も納得しているならそれもよしかも知れないけど、しかし、いくらなんでも全校生徒の前で私を吃らせて笑い者にしてやろうというまでの悪意はクラスメートにはなかったと思う。正音者は、平生「どもり、どもり」と冷やかしていてもそれはその場限りのことであって、当の吃音者のように日常的にそれを意識しているわけではない。どもりだから、立会演説は苦手だろうということまでは思考回路が結びつかないのである。もっとも、私自身も吃音が理由で立候補者の推薦から外されていけばもっと傷ついていたかも知れない。今ではこの無邪気なるクラスの残酷な推薦に感謝しているのだが。

立会演説は、全校生徒を集めて運動場で開かれた。演説の順番はくじ引きで決定され、T君は中ほどで、私は最後の方で演説することになった。演説内容は吃らない言葉で埋め尽くした上、100回は練習したと思う。ところが、初めの方に演説した他クラスの候補者が「O組からは、私以外にOO君が立候補していますので、OO君もよろしくお願いします。」とやったのである。これを見習ってそれ以降の候補者は全員同じことを演説の最後に付け加えた。T君も「同じクラスの山崎君をお願いします。」と言ってくれた。予定外の言葉だ。予定外の言葉を入れると吃ってしまうかも知れない。1000人を前にしての演説。私は聴衆の方を見ないようにして、全文覚えているのに紙を読みながら演説した。多少吃ったかなんとかごまかしながら最後までいった。そして最後に「同じクラスのT君もお願いします。」と言おうとしたが、やはりだめだった。5秒くらいの沈黙があったと思うが、私はあきらめて頭を下げて演台を降りた。後でT君が怒ったのは言うまでもない。もちろん私は落選した。

T君にはすまなかったな〜とずっと思い続けてきたが、最近はや友会の影響か、吃音だった私が言えなかったのは当然なことでは仕方ないじゃんかという風に心の持ち方が変わってきている。いいことだと思う。

中高校生のつどい開催のお知らせ

日時:平成25年3月17日(日)10:15~16:30(10:00にお集まりください)

会場:豊島区立池袋小学校 家庭科室&ことばの教室

費用:800円(小学生半額、幼稚園児以下無料)

定員:72名 先着順です。なるべくお早めにお申込ください。

申込〆切:3月10日(日)

申し込み・お問い合わせ先・千代田区立千代田小学校 ことばの教室 児嶋和子まで

TEL:03-3256-8987 FAX:03-5256-6822

第10回ISA世界吃音者大会

日時:2013年6月10日(月)~13日(木)

会場:オランダ ルンテレン

※詳細はこちら→HP:<http://www.demosthenes.nl/wc2013/>

奈良言友会 これからの活動予定 2012年度後期(3月)の例会予定

例会

日時:毎月第1日曜日 午後1:30 ~ 4:30

場所:奈良市はぐくみセンター(JR奈良駅西口 南へ歩3分)

3月3日(日)

第1部:話し合い(ピア・カウンセリング) 発題:野口さん

第2部:狂言のけいこ 担当:西村さん

中世に生まれた楽しいお芝居、「狂言」のけいこをします。狂言の発声や息使いを用いてセリフのやりとりなどをします。

例会の後、平成25年度奈良言友会の活動内容を決めたいと思いますので是非ご出席ください。

※ 例会の内容は、都合により変更されることがあります。予めご了承ください。

奈良言友会 連絡先

堀 茂 〒636-0915 生駒郡平群町春日丘2-13-15

TEL/Fax0745-45-2857 090-9610-6393 Email: sigeru1030@yahoo.co.jp

奈良言友会HP <http://naragennyukai@hotmail.co.jp>

奈良言友会会報誌「まほろば」 編集発行 山崎 貴浩